

2017年3月20日

## 障害者スポーツ選手掘り起こし事業『車いすテニス競技体験会』実施報告書

千葉県車いすテニス協会  
会長 楯岡 政信  
テニスコーチ 山口憲一郎

2017年2月18日（土）、障害者スポーツ選手掘り起こし事業『車いすテニス競技体験会』が、千葉県障がい者スポーツ協会主催、千葉県車いすテニス協会（CWTA）主管、千葉県テニス協会（CTA）後援のもと、蘇我スポーツ公園フクダ電子ヒルステニスコートにて開催されました。

この事業は、車いすテニス競技の有望選手を幅広く掘り起こす（発掘する）ために開催し、運動能力の高い障害者スポーツ選手が車いすテニス競技への興味や関心を高めるとともに、今後自ら積極的に活動できるような環境を作ることを目的とし、2016年から実施しています。

参加者は、身体障害者手帳を所有する方で、言語指示を理解し、集団行動に支障のない方、原則として中学生以上（小学生は要相談）が対象です。

指導者は、山倉昭男氏（2000年シドニーパラリンピック日本代表）、深澤美恵氏（2004年アテネ、2008年北京パラリンピック日本代表）、山口憲一郎氏（日本体育協会公認テニス教師、中級障がい者スポーツ指導員）、菊地幹樹氏（千葉県テニス協会理事）の4名が担当しました。

当日は総勢40名、参加者15名（一般5名、ジュニア10名）、講師4名、ボランティアスタッフ15名（CWTAほか）、関係者6名が集まり、初心者には車いすテニスを体験し、経験者は練習と試合を行いました。

10:00から16:00まで、午前と午後の二部制で、3つのグループ（一般、ジュニアAおよびB）に分かれて講習が行われました。

開会式、参加者全員でランニング、ストレッチングなどのウォーミングアップ、午前の部（90分）、昼食休憩、午後の部（120分）、閉会式、と充実した一日の内容でした。

開催当日には、千葉県テニス協会の南野泰造会長にご来場いただき、ご挨拶を頂戴しました。

多くの関係者の皆様のご支援ご協力をいただき、無事に事業を終了することができました。ありがとうございました。

さて、今回の事業で特筆すべきは、千葉県車いすテニス協会（CWTA）と千葉県テニス協会（CTA）が時間と場所を共有したことです。

千葉県障がい者スポーツ協会は、東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業として二つの主な活動をしています。

一つは「パラリンピックアスリート強化」、もう一つは「障害者スポーツ選手の掘り起こし」です。(参照 URL <http://suporeku.server-shared.com/> )

「パラリンピックアスリート強化」として、千葉県は4名の特別強化指定選手を支援しています。2016年リオデジャネイロパラリンピック車いすテニス男子ダブルス銅メダルの国枝慎吾選手と齋田悟司選手、2016年優秀スポーツ選手賞の鈴木康平選手、そして藤本佳伸選手です。

「障害者スポーツ選手の掘り起こし」は、今回の事業のように新たな人材発掘と共に障がい者スポーツの普及活動です。この普及活動には主に二つの課題があり、一つは「障がい者スポーツを観る人を増やすこと」、もう一つは「障がい者スポーツをやる人を増やすこと」です。

「たった2パーセント。まだ2パーセント。」

オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を2020年に控え、障がい者スポーツを観戦した経験を持つ人は2パーセントしかないと言われています。

加えて「やる人」はより少なくなり、これらを増やすためには障がい者スポーツに関わる人を増やし、認知度を増やすことが必須です。

日本テニス協会の傘下に日本車いすテニス協会が組織されていますが、車いすテニスの大会開催以外、時間や場所を共有する機会は希少です。今回のような普及活動に地域のテニス協会と車いすテニス協会と一緒に活動したことは非常に大きな価値があります。

テニスは障がい者スポーツの中でも特別な可能性をもっています。それは車いすテニスだけでなく、ブラインドテニス（視覚障害）、聴覚障害、知的障害など、すべての人々が同じコートに立って一緒にプレーができるということです。

レベルや年齢だけでなく、障がいの有無も問わずに、テニスの輪を拓ける。

そして、テニスの文化や社会的価値が向上する。

今後も今回のようなお互いの協会を通じた協力関係を構築し、より多くの方々がテニスコートで出会う機会をつくる、これが「レガシー」となることを願います。



